

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書 (XII)



宮崎県教育委員会

2009. 3

目 次

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯	1
第Ⅱ章 202号墳の発掘調査	3
第Ⅲ章 46号墳の発掘調査	7

例 言

- 1 本書は、文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が平成20年度より実施する「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の平成20年度の概要報告書である。
- 2 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
- 3 本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館 学芸普及担当 主査 吉本正典が行った。
- 4 発掘調査実施地点は下記のとおりである。
202号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3930番地
46号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二5670番地
- 5 調査で出土した遺物は、同博物館において保管している。

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯

第1節 既往の整備事業

大正元年（1912）から6年にかけて実施された我が国初の学術発掘調査や、昭和27年の特別史跡指定、昭和41年から43年にかけての『風土記の丘』整備事業（資料館建設や古墳の修復工事）など、西都原古墳群を巡る調査・整備史にはいくつかの歴期がある。以後、それらの取組みと地元の理解により、史跡公園としての環境創出と古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の活用」という視点から、平成5年度と6年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、「西都原古墳群保存整備基本計画」をとりまとめ、それに基づき、平成7年度より新たな整備事業に着手している。

平成7年度から14年度にかけては、文化庁の補助制度である「大規模遺跡総合整備事業」（平成9年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果をもとにした復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、平成15年度から5か年は「歴史ロマン再生空間形成事業」に着手し、引き続いて文化庁の補助を受けて、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事などの事業を実施してきたところである。

第2節 新事業「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」

宮崎県教育委員会では、平成19年度に「西都原古墳群保存整備基本計画」を上位計画と位置付けた上で、新たな整備実施計画を策定し、20年度より5か年計画で標記事業に着手することとなった。

この事業は、広大な西都原古墳群の中でも、各時期の前方後円墳が集中し、大正時代の発掘調査古墳も多い「第1古墳群」を中心とした対象と定め、集中的に環境整備事業を行っていくものである。

本年度は202号墳（姫塚）の発掘調査に着手し、46号墳の墳丘整備工事の設計を行う予定としていた。ただし46号墳については、既調査部分のみでは墳丘や周溝の構造が完全に復元できないため、今年度に追加のトレンチ調査を行うこととなった。

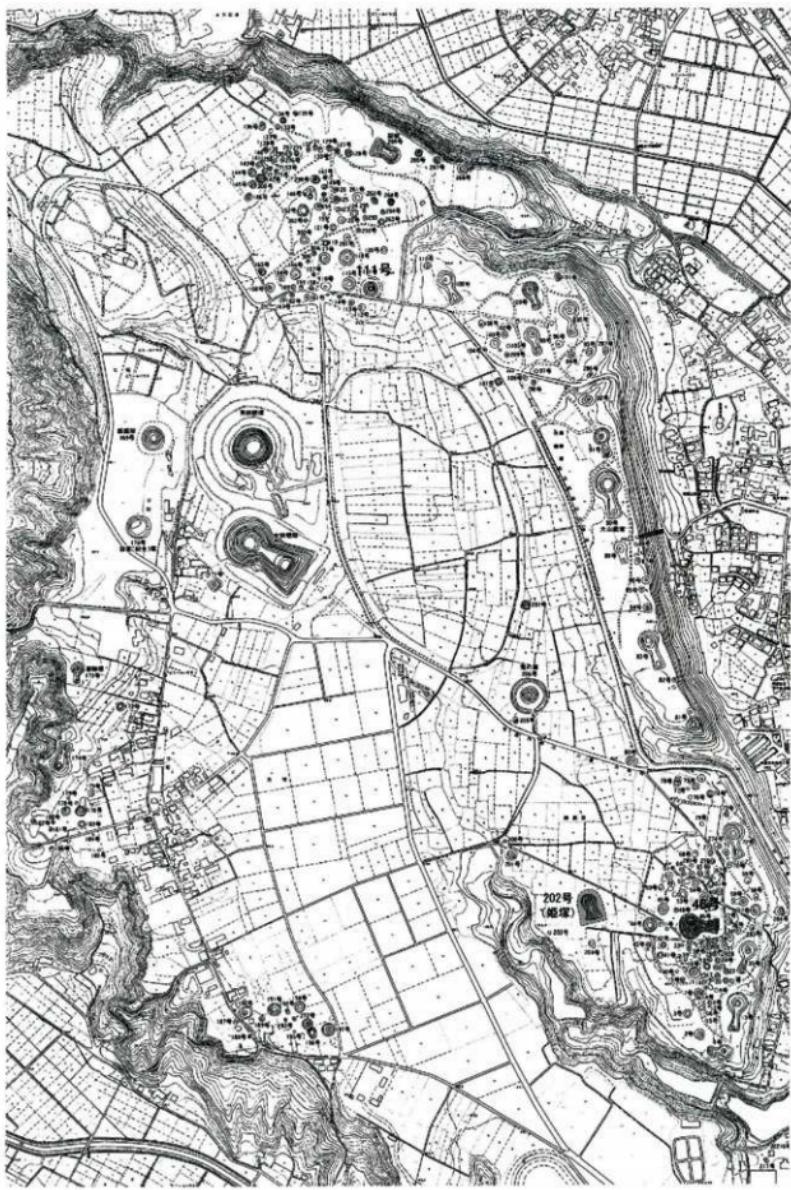
その他、整備工事等は実施していないが、170号墳周辺の測量と公有化を行った。

発掘調査や復元に関して、西都原古墳群保存整備指導委員の下記の研究者より指導・助言をいただいた。（敬称略）

柳沢 一男 宮崎大学教育文化学部教授

岸本 直文 大阪市立大学文学部准教授

重藤 輝行 佐賀大学文化教育学部講師



第1図 西都原古墳群全図及び発掘調査・復元整備古墳の位置

第Ⅱ章 202号墳の調査

第1節 古墳の立地

202号墳（通称「姫塚」）は西都原台地東南部のグループである第1古墳群に西端に位置する前方後円墳である。現況の墳長は50m。墳丘の西と東に谷地形が入っており、特に西側の谷は深く台地を刻む。その谷頭付近には酒元ノ上横穴群が分布している。さらに北方約400mの台地上には横穴式石室を有する鬼の窟古墳がある（第1図）。

第2節 既往の発掘調査

当墳は既に大正時代に発掘調査が行われている。大正元年（1912）の第一次調査において、後円部と前方部の墳頂及びくびれ部付近の掘り下げが行われた。調査者は黒板勝美・今西龍・濱田耕作らが名を連ねている。後円部墳頂から直刀、刀子、鉄鎌、玉類や須恵器杯や提瓶、壺が、前方部から直刀、刀子、鉄鎌、須恵器杯が出土しているが、埋蔵主体部の構造に関する詳細は不明である。

第3節 調査の概要

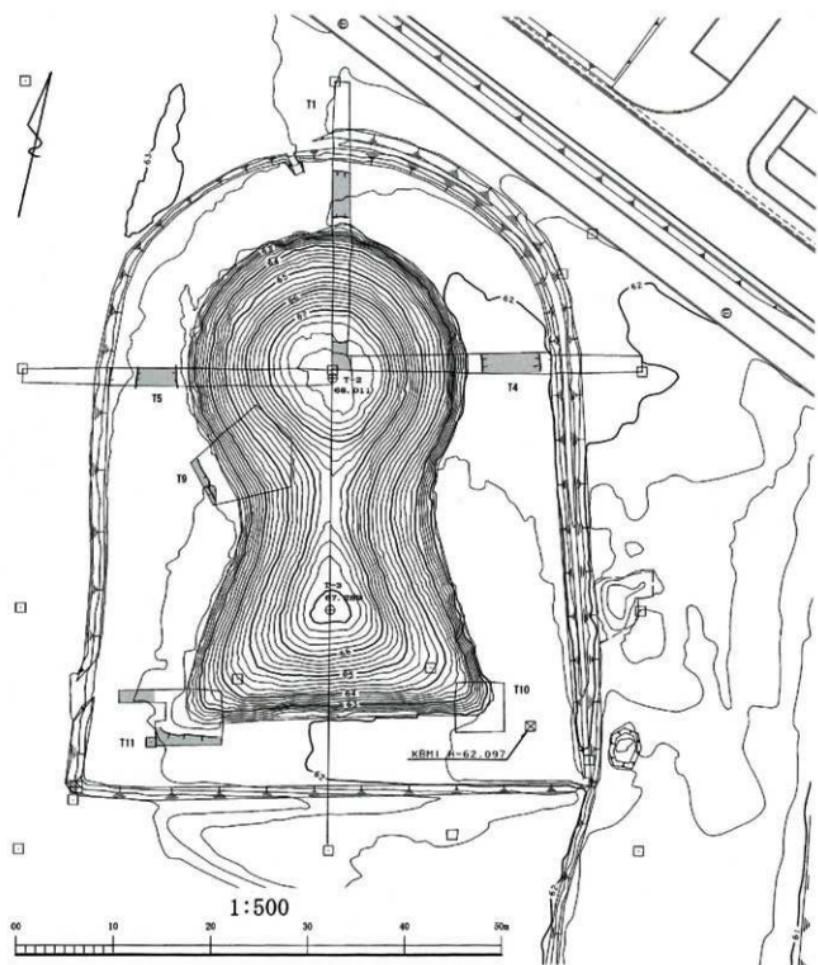
発掘調査に際して、後円部の任意の中心点から前方部の中心を通る主軸を定めた。また後円部と前方部2箇所において、それに直交する軸を設け、L字を組み合わせたトレンチを設定した。またくびれ部と前方部隅角に2箇所、対称となる位置にやや広めのトレンチを設けた。このうち、本年度に掘り下げを行ったトレンチはT1・T4・T5・T9・T11で、実掘面積は240m²である（第2図）。L字形のトレンチは周溝や周堤帯、墳丘斜面の形状確認、後円部及び前方部墳頂平坦面における大正時代の調査坑の再検出という目的を有している。

調査は平成20年8月1日から実施し、21年1月21日に埋め戻しまで完了している。掘り下げの結果、下記の点が判明した。

①古墳の周囲に現状より深い周溝が巡ること、②現況（『風土記の丘』整備後）の周堤帯は、高さの根拠は不明であるが位置は誤りでないこと、③墳丘は2段に築かれ、表面に葺石は認められないこと、④後円部墳頂平坦部にて、大正時代の調査坑掘り方の一部が検出され、埋め戻し土の上部に礫集積箇所（復旧祭に伴うもの）があること。⑤大正時代の調査坑の断面に、當時確認には至らなかった埋葬主体（木棺直葬）が姿をあらわしたこと等である。

出土遺物は、大正時代の調査坑埋め戻し土から丹塗り土師器片（高杯か壺）、周溝埋土中より須恵器杯や器台が出土したほか、埋葬主体部より鉄鎌が出土している。調査は、次年度も継続予定となっている。

なお、平成20年9月14日に、上記の内容について公開する「現地説明会」を実施した。





202号墳 T 1



202号墳 T 5



202号墳 T9とT11



202号墳 T1の大正時代調査坑

第Ⅲ章 46号墳の調査

第1節 古墳の立地と既往の調査

46号墳は第1古墳群のほぼ中央に立地する前方後円墳であり、前章で触れた202号墳の東方約400mの地点に位置する。

この46号墳に関しては、平成15年度から18年度まで、「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」による確認調査が実施され、昨年度、報告書が刊行された。

第2節 調査の概要

今回の調査では、後円部と前方部が接合する箇所と前方部中程の在り方についてのデータを得るために、トレントを設定して掘り下げを行った。着手日は平成21年1月16日であり、3月末まで実施した。実掘面積は195m²である。

トレント番号は既往の調査の番号を引き継ぐこととし、後円部と前方部の接合箇所にT14～16、前方部を横断する箇所にT17・18を設定した（第3図）

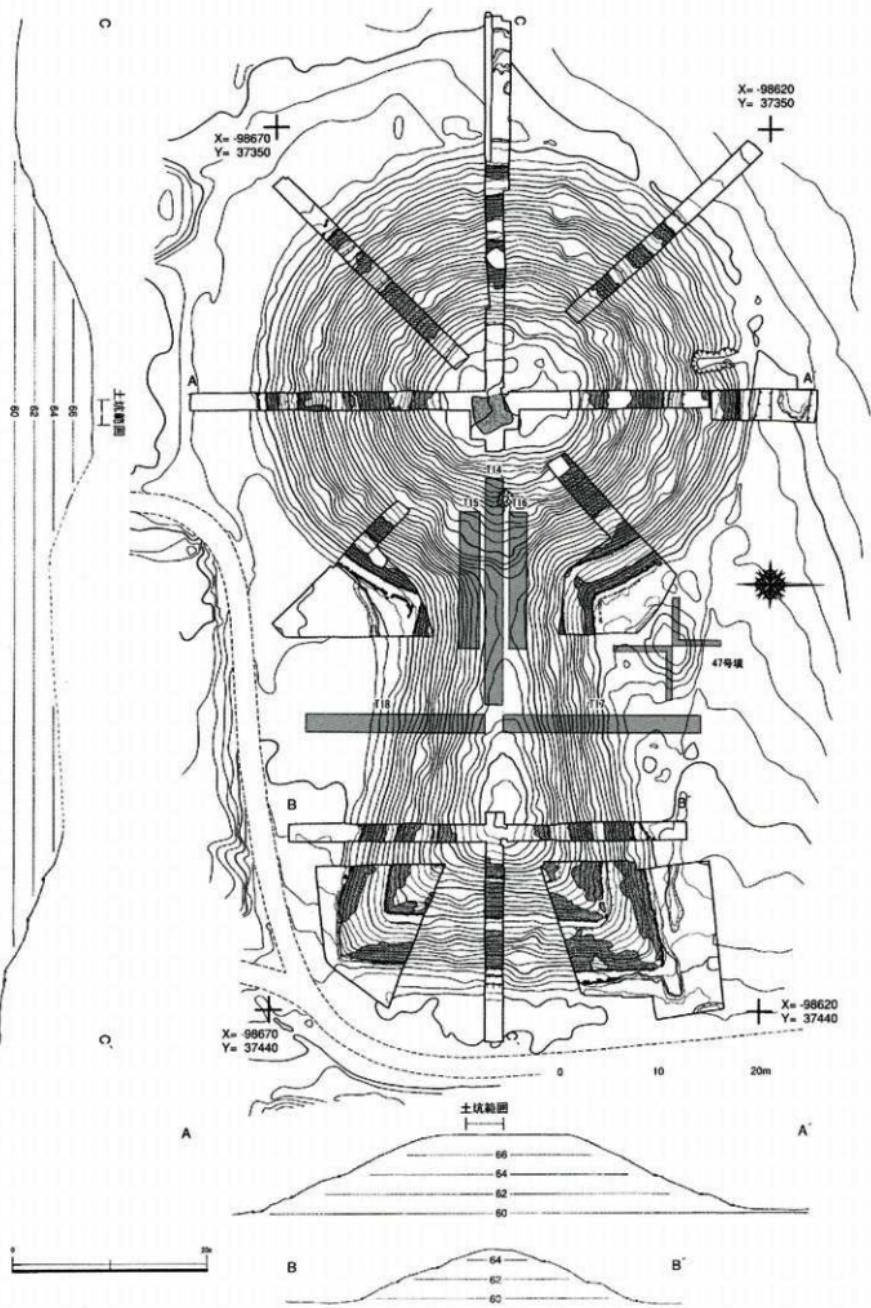
T14とT16のそれぞれ端部で、墳丘斜面に葺かれた葺石が検出された。くびれ部を除き、さほど遺存状況は良好とは言えないが、一部で区画列が認められる。

T17とT18においても葺石が検出され、3段築成の墳丘構造が追認された。やはり葺石の遺存状況はさほど良くないが、部分的に区画列が認められた。墳裾部には大きめの礫による基底部があり、その外側に貼石状の礫が見られた。既往の調査で基底部には2重の根石列が巡ることが確認されているが、今回の調査区内ではそのような明瞭な箇所は認められなかった。

後円部と前方部の接合箇所には、現況で「壇状」を呈する高まりがある。今回、T16での掘り下げの結果、この高まりは古墳造営時以後の土の堆積によるもので、その位置からみて後円部斜面に掘られた縦坑掘削の際の堆土である可能性が高い。

さらに、46号墳の北に近接して存在する47号墳について、時期や性格を検証するため、幅50cmのトレントを入れて、表土を剥ぎ、精査を行った。墳丘は昭和初期までの開墾時の掘削により北側が削られており、裾部には史跡指定時の境界柱が立てられている。掘り下げの結果、基盤層（黄褐色ローム層）が「墳丘」中心部に向かって標高を増し、一部は基盤層ブロック土で墳丘を積み上げた跡が確認された。この層は46号墳の周溝堆積土の下部に位置することから、47号墳は周溝埋没以前に存在したマウンドであり46号と関連する施設であることが明確となった。島状の祭祀関連箇所である可能性が考えられるが、今回のトレント内では出土遺物は見られなかったことから、断定はできない。

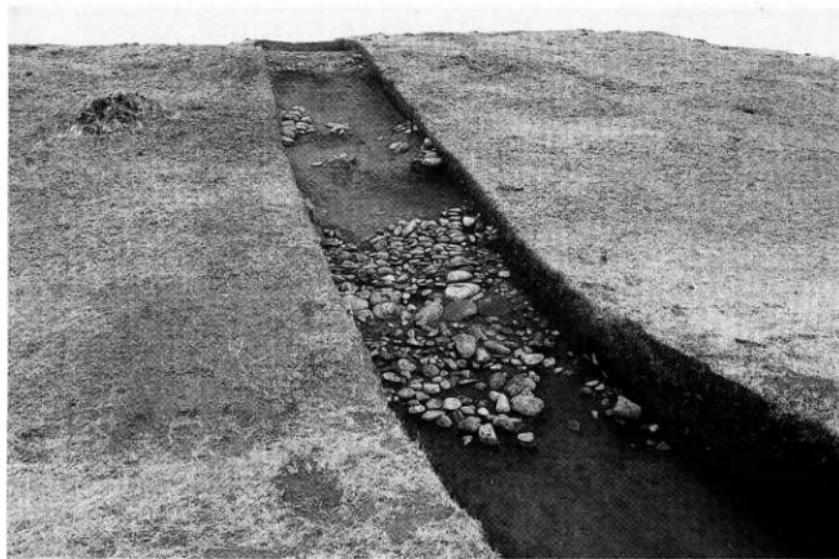
古墳に伴う出土遺物は少ないが、突帯を有する壺形土器の胴部片や穿孔を施す底部片などが認められた。



第4図 46号墳 既往の調査成果と今回のトレンチの位置



46号墳 くびれ部 T16



46号墳 前方部 T18

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき さいとばるこふんぐん はっくつちょうさ・ほぞんせいびほうこくしょ
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備報告書
卷次	一
シリーズ名	—
シリーズ番号	X II
編著者名	吉本正典
発行機関	宮崎県教育委員会（県立西都原考古博物館）
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目9番10号（〒881-0005 西都市三宅字西都原西5670）
発行年月日	2009年（平成21年）3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査原因	調査面積
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡名					
さいとばるこふんぐん 西都原古墳群 202号墳	西都市大字三宅字 原口二3930	25208				2008.8.1 2009.1.21	史跡整備 関連	240m ²
		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
		古墳	古墳	周溝	土師器・須 恵器・鉄器	大正時代の掘り方の 再検出		
さいとばるこふんぐん 西都原古墳群 46号墳	西都市大字三宅字 原口二5670	25208				2009.1.16 2009.3.31	史跡整備 関連	240m ²
		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
		古墳	古墳	葺石	土師器			

特別史跡
西都原古墳群
発掘調査・保存整備概要報告書（XII）

2009年3月

発行 宮崎県教育委員会
編集 宮崎県立西都原考古博物館
印刷 宮崎紙工印刷株式会社
